

実施報告書

2023 年度日系社会次世代育成研修

(中学生招へいプログラム) 第 2 陣

2024 年 1 月 9 日～2 月 1 日



2024 年 3 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

公益財団法人海外日系人協会

目次

1. 日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）の概要	1
2. 参加者名簿	3
3. 2023年度第2陣プログラム日程	6
4. プログラム内容	7
5. 引率者の所感	33
引率者 川辺 レナタ（ブラジル）	
6. 総評	35

【参考】2023年度「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」募集要項



1. 日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）の概要

(1) 研修の沿革および目的

本研修は独立行政法人国際協力機構（JICA）が中南米地域への移住者の定着・安定のために移住者子弟教育として1987（昭和62）年度に「日本語学校生徒研修」として開始し、2012（平成24）年度からは、名称を「日系社会次世代育成研修」、2015（平成27）年度からは「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」として実施しています。

本研修では、海外の日本語学校に在籍する成績優秀かつ品行方正で将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質のある日本語学校生徒が、日本人の海外移住の歴史に関する学習、中学校体験入学、ホームステイ、その他の各種研修を通じて、自分たちのルーツに対する理解と日本に対する理解を深め、さらに自らの日系人としてのアイデンティティの強化を図ることを目的としています。

さらには、本研修が日系社会での日系継承語教育の振興を促し、日系社会の次代を担う人材の育成に寄与することを上位の目標としています。

(2) 対象国および人数

通常：第1陣は5カ国13名、第2陣は5カ国36名の10カ国49名（他引率者2名）

第1陣：カナダ、メキシコ、ドミニカ共和国、コロンビア、ベネズエラ

第2陣：ブラジル、ペルー、ボリビア、パラグアイ、アルゼンチン

2023年度：第1陣は5カ国21名、第2陣は5カ国36名の10カ国57名

（他引率者2名、安全・健康管理員6名）で実施

※ 新型コロナウイルス感染拡大により、2020～2022年度に本研修が中止になったことから、2023年度第1陣に関しては、通常の受け入れ人数に加え、特別枠として、高校生相当（16歳以上18歳以下）の子弟を追加募集しました。

研修員出身国内訳

受入		対象国	研修員 参加者数	引率者、 安全健康管理員
第2陣	5カ国36名 (引率者1名、 安全・健康管理員 3名)	ブラジル	20名 (男10名、 女10名)	4名 (男1名、 女3名)
		ペルー	4名 (男3名、 女1名)	0名 (男0名、 女0名)
		ボリビア	3名 (男1名、 女2名)	0名 (男0名、 女0名)
		パラグアイ	3名 (男1名、 女2名)	0名 (男0名、 女0名)
		アルゼンチン	6名 (男1名、 女5名)	0名 (男0名、 女1名)
			36名 (男16名、 女20名)	4名 (男1名、 女3名)

(3) 研修期間

現地の学校事情に合わせ、上記(2)のとおり2グループに分けて実施しています。

第1陣：毎年度6月第2～3週から24日間程度

第2陣：毎年度1月第2～3週から24日間程度

(4) 研修概要

プログラム	内容	研修場所
移住学習	海外移住資料館の見学 移住に関する講義、ワークショップ 各研修員のルーツを探る	JICA 横浜 史跡、博物館等
体験入学	授業出席 部活動 日本の中学生との交流等	横浜市内の中学校
ホームステイ	日本での実生活体験 ホストファミリーとの交流	神奈川県近郊、 各ご家庭
研修旅行	日本の文化体験、 社会教育施設・科学技術館等の見学	関西方面
その他	プレゼンテーション指導 作文指導 研修報告会	JICA 横浜

2. 参加者情報

No.	国名	所属日本語学校名	①日本で体験したいこと ②趣味・特技等	得意な学科
1	ブラジル	むつみ幼稚園/ サンパウロ州サンパウロ市	①雪が見たい、鈴鹿サーキットに行きたい、富士山を見たい ②F1、天体観測	数学
2	ブラジル	グアタバラ日本語学校/ サンパウロ州グアタバラ市	①お城を見たい、富士山を見たい、温泉に入りたい、新幹線に乗りたい、ゲームセンターへ行きたい、回転ずしに行きたい、ディズニーランドに行きたい ②チェス、ゲーム、アニメ	数学
3	ブラジル	ジャカレイ日本語学校/ サンパウロ州ジャカレイ市	①日本で色々な所へ行き、新しい食べ物を食べたい、日本の文化をもっと知りたい、雪を見て雪だるまを作りたい ②太鼓、サッカー、絵を描くこと	/
4	ブラジル	コロナピニャール日本語モデル校/ サンパウロ州サン・ミゲル・アルカンジョ市	①バレーボールをしたい、日本の昔話や歴史を覚えたい、日本の自然と景色を見たい、日本で太鼓を叩きたい、篠笛の先生から学びたい、すしや海鮮丼、ラーメンを食べたい ②チェス、ソフトバレー、ドッジボール、太鼓、篠笛、読書	哲学
5	ブラジル	共栄日本語学校/ 南マットグロソ州ドウラードス市	①日本の文化、特に日本舞踊がもっと知りたい、日本語がもっと上手になりたい、日本の生徒と交流をして、中学生の生活について学びたい、日本を自分の目で見て、ブラジルの友だちに伝えたい ②日本のドラマを見ること、日本舞踊、演歌を聞くこと	/
6	ブラジル	ピンドラーマ日本語学校/ サンパウロ州モジ・ダス・クルーゼス市	①旅館に泊まりたい、和食を食べたい、新幹線に乗りたい、日本の伝統的な服を着たい、日本の田舎に行きたい ②釣り、バドミントン	歴史、地理、数学、英語
7	ブラジル	マリリア日系文化体育協会/ サンパウロ州マリリア市	①日本の歴史を学びたい、日本の文化を見たい、うどんを食べたい ②卓球、バレーボール	/
8	ブラジル	第一アリアンサ日本語学校/ サンパウロ州ミランドポリス市	①日本の学校生活を体験したい、お寺に行きたい ②草花の観察、陸上競技、ダンス	理科、数学
9	ブラジル	NIC日本語倶楽部/ サンパウロ州サンパウロ市	①寺や神社が見たい、中学校の技術・家庭科の授業を受けてみたい、工場見学をしたい ②絵画、合唱、水泳	ドイツ語、ポルトガル語、歴史
10	ブラジル	実学園/ パラナ州ロンドリーナ市	①日本文化を知りたい、中学校を体験したい、新幹線に乗りたい、日本の祭りに参加したい、自然のある観光地を見たい ②日本舞踊、手芸、陸上競技、絵画	/
11	ブラジル	マナウス日本人学校/ アマゾナス州マナウス市	①同年代の人たちと交流をしたい、日本の文化をもっと知りたい ②読書	美術
12	ブラジル	マナウス日本人学校/ アマゾナス州マナウス市	①日本人の友だちをたくさん作って、仲良く一緒に遊びたい、部活動をしてみたい、お寿司やラーメンを食べたい、広島平和記念公園に行ってみよう ②サッカー	国語
13	ブラジル	ブラジリア日本語モデル校/ ブラジリア連邦直轄区ブラジリア市	①記載なし ②バレーボール、絵を描くこと	/
14	ブラジル	ゴイアス日本語モデル校/ ゴイアス州ゴイアニア市	①日本の中学校に行ってみよう ②チェス、バレーボール	科学、歴史
15	ブラジル	レシフェ日本語学校/ ペルナンブコ州レシフェ市	①日本の子どもの生活を知りたい、日本の学校のクラスで勉強してみたい、日本の子どもと友だちになりたい、母が勉強したJICAも見たい ②水泳、折り紙、料理	/

No.	国名	所属日本語学校名	①日本で体験したいこと ②趣味・特技等	得意な学科
16	ブラジル	レシフェ日本語学校/ ペルナンブコ州レシフェ市	①ラーメンが食べたい、水族館に行きたい、雪が見たい ②バレーボール、サッカー	数学
17	ブラジル	ヴィトリア日本語モデル校/ エスピリト・サント州ヴィトリア市	①日本の日常の礼儀を体験したい、カレーを食べたい、温泉へ行きたい ②バスケットボール、バレーボール	数学
18	ブラジル	日伯文化連盟/ サンパウロ州サンパウロ市	①日本文化をもっと学びたい、日本語を練習したい、日本の食べ物を食べたい ②バレーボール、ダンス	/
19	ブラジル	トメアス日本語学校/ パラ州トメアス市	①日本の中学生とバレーボールをしたい、たこやきを食べたい ②バレーボール、自然を眺めること	数学
20	ブラジル	ベレン日本語学校/ パラ州ベレン市	①雪が見たい、色々な日本料理が食べたい、観光地を知りたい、新しい経験をしたい、 新しい友達を作りたい ②料理、折り紙、バレーボール、卓球	数学
21	ペルー	ラ・ウニオン日系校/ リマ州リマ市	①日本人の生活を体験して、日本人と話してみたい、文化を知りたい、新幹線にも乗りたい、 新しい世界を知りたい、和食を食べしてみたい ②テニス、読書、言語を勉強すること	言語
22	ペルー	ペルー日系人協会/ リマ州リマ市	①富士山やお寺、神社など日本文化を感じるところを見たい、日本のテクノロジーを感じる 新幹線や運転手のいない電車やバスに乗ってみたい、日本料理を食べたい ②アニメ、ゲーム、バレーボール	物理学
23	ペルー	ラ・ウニオン日系校/ リマ州リマ市	①日本の学校へ行って、クラスを見てみたい ②サッカー、バドミントン、和太鼓	数学、日本語
24	ペルー	ラ・ウニオン日系校/ リマ州リマ市	①同年代の研修員と生活をともにしたい、日本の生活を学びたい ②テニス、バイオリン、読書	英語、日本語
25	ボリビア	サンファン学園/ サンタクルス県サンファン市	①日本の学校や家の生活を体験したい、桜の花が見たい ②バレーボール	音楽、日本語
26	ボリビア	サンタクルス日本語教室/ サンタクルス県サンタクルス市	①日本の文化を学びたい、日本のことをもっと知りたい、お寺や神社に行きたい ②バレーボール、ギター、エイサー	/
27	ボリビア	ラパスボリビア日本文化財団日本語普及校/ ラパス県ラパス市	①日本の古い建物を見たい（金閣寺など）、東京タワーを見たい ②卓球、バレーボール、囲碁	国語、美術
28	パラグアイ	ピラボ日本語学校/ イタプア県ピラボ市	①手芸 ②手芸、バレーボール	/
29	パラグアイ	イグアス日本語学校/ アルトパラナ県イグアス市	①バレーボールの練習、寺を見に行きたい ②卓球	/
30	パラグアイ	イグアス日本語学校/ アルトパラナ県イグアス市	①日本食を食べたい、中学生と話したい、お城が見たい、富士山を見てみたい ②音楽鑑賞、バドミントン	数学

No.	国名	所属日本語学校名	①日本で体験したいこと ②趣味・特技等	得意な学科
31	アルゼンチン	ブエノスアイレス日亜学院/ ブエノスアイレス州ブエノスアイレス市	①中学生の日常生活が知りたい(学校生活、部活、学校の外での生活など)、学校に行くとどのように過ごしているのか体験してみたい、バレーボールと一緒にしたい ②絵、バレーボール	英語、数学
32	アルゼンチン	フロレンシオ・バレーラ日本語学校/ ブエノスアイレス州フロレンシオ・バレーラ市	①日本語を上達させたい、色々な観光地に行きたい、新しい友達を作りたい、お菓子や日本食を食べてみたい ②日本舞踊、絵を描くこと、本を読むこと	/
33	アルゼンチン	エスコバル日本語学園/ ブエノスアイレス州エスコバル市	①新しい友達を作りたい、日本語の勉強をしたい、日本の食べ物を食べたい、有名なところへ行きたい、ホームステイをしたい ②読書、水泳	社会、道徳
34	アルゼンチン	ラプラタ日本語学校/ ブエノスアイレス州ラプラタ市	①学校へ行って、たくさん友達を作りたい、太鼓を打っているところを見たい、色々な場所を見たい ②太鼓、よさこい、歌	/
35	アルゼンチン	ブルサコ日本語学園/ ブエノスアイレス州ブルサコ市	①生まれた町やそこに住んでいる同年代の子たちを知りたい、友達を作って自分が育っている国のことを共有し、ほかの国や日本人の伝統を知りたい ②絵を描くこと	数学
36	アルゼンチン	ブエノスアイレス日亜学院/ ブエノスアイレス州ブエノスアイレス市	①日本で日本の文化と習慣をもっと知りたい、日本の学校に行き、友達を作って、日本語で話す練習をたくさんしたい ②コンピューター、バレーボール	数学

引率者	ブラジル	川辺日本語学校/ リオグランデ・ド・スル州ペロタス市
健康安全管理	ブラジル	アブカラナ日本語学園/ パラナ州アブカラナ市
健康安全管理	ブラジル	アルカージ日本語学校/ ブラジリア連邦直轄区ブラジリア市
健康安全管理	ブラジル	ブラジリア日本語モデル校/ ブラジリア連邦直轄区ブラジリア市

3. 2023年度第2陣プログラム日程

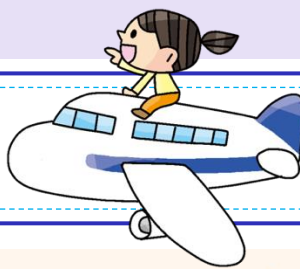
2023年度JICA日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）第2陣 日程

2024年1月

つき月	ひ日	ようび曜日	ご ぜん 午前			ご ち 午後			よる夜	ひこう備考
			あさ かい朝の会	げん 1限	げん 2限	げん 3限	げん 4限	げん 5限		
1	9	か 火	らいにち 来日 (教材・備品の配布・自己紹介、うわばき探寸)						なし	ホテル チェックイン
	10	すい 水	あさ かい朝の会	らいにち 来日ブリーフィング	かいてろしき 開講式	らいにち 来日アンケート	たいけんにゆうがく 体験入学オリ	ゆうがた かい夕方の会	○	
	11	もく 木	やがいすいはん アイスブレイク (野外炊飯、プロジェクトアドベンチャー)						○	しよがいけんしやう 所外研修
	12	きん 金	あさ かい朝の会	ちゆうがっこう 中学校体験準備 プレゼンテーション作成	おきなわ ちゆうがっこう 沖縄の中学校	ちゆうがっこう 中学校	じ ぜん あいさつ 事前挨拶	ゆうがた かい夕方の会	なし	
	13	ど 土	きゆうじつ 休日 (希望者でJICA横浜周辺を散策)						なし	ふくりこうせい 福利厚生①
	14	にち 日	きゆうじつ 休日						○	
	15	げつ 月	あさ かい朝の会	いじゆうがくしゆう 移住学習				ゆうがた かい夕方の会	○	
	16	か 火	あさ かい朝の会	けんしゆうりょこう 研修旅行	じ ぜん がくしゆう 事前学習	かんきやうがくしゆう 環境学習	かがく 科学		○	しよがいけんしやう 所外研修
	17	すい 水	ちゆうがっこう 中学校 体験入学						○	
	18	もく 木	ちゆうがっこう 中学校 体験入学						○	
	19	きん 金	ちゆうがっこう 中学校 体験入学						○	ホストファミリー との1日交流オリ
	20	ど 土	ホストファミリーとの1日交流日						○	
	21	にち 日	じゆう じかん 自由時間	パッキング・荷物準備			にもつ じゆんび 荷物移動	○	にもつ いろいろ 荷物移動	
	22	げつ 月	けんしゆう りょこう おおさか 研修 旅行 (大阪)						○	ホテル チェックアウト 旅館 チェックイン
	23	か 火	けんしゆう りょこう きょうと 研修 旅行 (京都)						○	
	24	すい 水	けんしゆう りょこう こうべ 研修 旅行 (神戸)						○	旅館 チェックアウト ホテル チェックイン
	25	もく 木	あさ かい朝の会	こご 国語	ほうこくしよ さくせい した が 報告書 作成 (下書き)			ゆうがた かい夕方の会	○	
	26	きん 金	あさ かい朝の会	にほん まな 日本で学ぶ	ちゆうしよく いろいろ 昼食・移動	ちゆうがっこう ほうちん 中学校 訪問		なし		
	27	ど 土	きゆうじつ 休日 (希望者で横浜近郊を散策)						なし	ふくりこうせい 福利厚生②
	28	にち 日	きゆうじつ 休日						○	
	29	げつ 月	あさ かい朝の会	ほうこくしよ さくせい せいしよ 報告書 作成 (清書)		ほうこくかい じゆんび 報告会 準備/プレゼンテーション作成		ゆうがた かい夕方の会	○	
	30	か 火	あさ かい朝の会	きこく 帰国ブリーフィング・ 帰国アンケート	ほうこくかい じゆんび ほうこくかい 報告会 準備/発表 練習	にもつ じゆんび / にもつ けいりやう 荷物 準備/荷物 計量		○	いんさつしやほうこくかい 引率者 報告会	
	31	すい 水	あさ かい朝の会	ほうこくかい じゆんび 報告会 準備/リハーサル		(14:00~16:00) けんしゆういん ほうこくかい 研修員 報告会	(17:00~17:30~18:00) へいごしき ほうこくかい 閉講式・送別会	○		
2	1	もく 木	きこく 帰国 (ペルー4名、ブラジル8名、ボリビア3名、パラグアイ3名、アルゼンチン6名)							ホテル チェックアウト
2	2	きん 金	きこく 帰国 (ブラジル12名)							ホテル チェックアウト

4. プログラム内容

研修が開始しました！



2024年1月10日



いよいよ、 研修スタート！



開講式

中学生のトレードマークとなるユニフォームに着替え、いよいよ今日から研修がスタートです。開講式ではみんな姿勢も良く、この研修への意気込みが伝わってくるようです。

最初に、JICA 横浜センターの三田村次長よりこの研修における3つの大事なことについてお話をいただきました。①この研修がどうして横浜で実施されているのか、②日本が研修員の住む国の日系社会と協力して絆を深めていきたいと思っていること、そして、③研修員の皆さんにこの研修で学んでほしいことです。研修員たちは大切な3つのことをしっかりと心に刻み、ルーツを探る旅へと一歩を踏み出しました。

開講式では、一人ひとり自己紹介もしました。少し緊張した面持ちの研修員でしたが、それぞれ、この研修で楽しみにしていることや、日本で頑張りたいこと、将来の夢などについても紹介しました。



ブラジル、ペルー、ボリビア、パラグアイ、アルゼンチンからの研修員は、地球の反対側から飛行機を乗り継いで、日本にたどり着きました。自分のルーツをたどる旅が、ここから始まります。

ようこそ、日本へ！



研修員に質問！

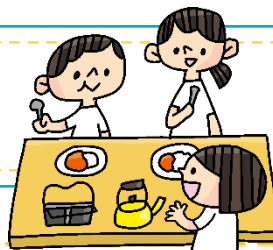
お家で食べる好きな日本食は？



1. カレー、寿司（にぎり寿司、手巻き寿司、ちらし寿司）（13票）
2. うどん（7票）
3. ラーメン、みそしる、天ぷら（6票）
4. さしみ（5票）
5. おにぎり、すき焼き、おもち（4票）



みんなで力を合わせて…



2024年1月11日

研修2日目は、みんなでバスに乗り、高尾の森わくわくビレッジへ出かけました。午前中のプログラムは野外炊飯です。みんなでカレー作りにチャレンジしました。薪を割って火をおこしたり、飯ごうでご飯を炊いたり…。初めてのことはばかりでしたが、おいしいカレーライスを作るために、グループみんなで力を合わせました。グループ内では、カレーを作りながら、自然なコミュニケーションも生まれ、野外炊飯を通して、研修員たちの距離もぐっと近づきました。寒空の下での水仕事は大変でしたが、自分たちで作ったカレーの味は格別でした！



アイスブレイク 野外炊飯 (カレー作り)



研修員の振り返りから

- ◇ チームでカレーを作って一緒に食べました。カレーはすごくおいしくて、みんなで過ごした時はとても楽しかったです。
- ◇ カレー作りがとても楽しかったです。一生忘れることができない、感激でした。グループと一緒にカレーを作るのは、超面白い体験でした。僕にとって、薪を切るのが、もっと楽しかったです。
- ◇ 今日のカレーライスはおいしかった。カレーの作りかたは意外と簡単で、面白かった。人を手伝うのが好きかもしれないと思った。グループの友だちは計画するのが早い！
- ◇ 今日はみんなで山の近くでカレーを作りました。カレーは少し苦手ですが、自分で作ったのでおいしく感じました。
- ◇ 水がとっても冷たかったです。思い出に残るようないいことばかりでした。またカレー作りたい！
- ◇ 今日はとても楽しい一日でした。カレーを作って食べました。カレーを食べるのが初めてで、とてもおいしかったです。
- ◇ 今日は山の近くに行って、カレーを作りました。グループで並んで野菜とお肉を切って、ご飯も作りました。
- ◇ 今まで話していなかった人と友達になったり、他の国の人たちの文化と言語を学ぶことができとても思い出になりました。

お互いをよくするために…



2024年1月11日



野外炊飯でグループの人たちとは少し打ち解けた様子の研修員たちでしたが、まだ話したことがない研修員もたくさんいます。午後に行ったプロジェクトアドベンチャーでは、お互いをよりよく知ることを目標に、様々なアクティビティに挑戦しました。ゲームを通して学んだチームビルディングのヒントを今後の研修にも活かします。



アイスブレイク プロジェクトアドベンチャー



レベル1
名前を覚える



レベル2
知り合う



レベル3
一緒に遊ぶ



レベル4
課題に挑む



研修員の振り返りから

- ◇ 「必ずみんなは同じものがある」ということを授業で学びました。最初は見つからなくても、あきらめなくて、お互いを知ること、仲良くなれることに気が付きました。私もこれからは、言葉が通じないから、好き嫌いが違うから仲良くなれない」という考え方を改めて、もっとその人を知りたいと思っています。そしてこの研修の最後にはみんなが国に関係なく仲良しで、たくさんの心に残る思い出ができてほしいと思っています。
- ◇ ゲームをしたり、みんなで協力しながら、遊んで失敗をしたりしたけど、とても楽しかったです。

- ◇ たくさんの人と日本語で話せて楽しかったです。ポルトガル語やいくらかの日本語を理解するのに少し時間がかかりましたが、それでも楽しむことができました。とても素敵なグループだと思います。
- ◇ 私たちは言語によって隔てられているように感じます。一方はブラジル人、もう一方はスペイン語を話す人たちです。私たちが団結できればいいのと思っています。
- ◇ 1か月後、全員友達になるのがいいと思います。他の人を良く知るようになったらいいと思います。



沖縄の中学生とオンライン交流



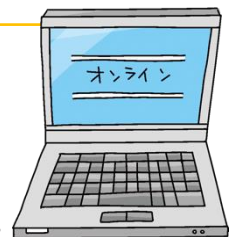
2024年1月12日

沖縄県にある東村立東中学校のみなさんにご協力をいただき、沖縄と横浜を結んだ1時間のオンライン交流を実施しました。研修員からは、沖縄ルーツの研修員2名が居住国の紹介と身の回りにある沖縄文化について発表をしました。東中学校のみなさんからは、学校生活についての発表があり、研修員は日本の中学生の生活について多くの気づきを得ることができました。最後の質問タイムでは、東中のみなさんから研修員に向けて、文化や生活に関するたくさんの質問が寄せられ、研修員は順番に回答していく中で、コミュニケーションの楽しさや喜びも体験することができ、翌週から始まる体験入学への期待やモチベーションも高めることができました。東中学校のみなさま、学びの多い素晴らしい交流の時間をありがとうございました！



研修員の振り返りから

- ◇ 沖縄の中学生が自分たちの文化や国について興味を持ってくれ、たくさん質問してくれたことが嬉しかった。
- ◇ 給食や部活の動画では、みんなが分担して活動に取り組んでいてすごいと思った。
- ◇ 給食や制服など、ブラジルと全然違うと思った。学校へ行ってもっと色々な場所を見てみたい。
- ◇ ペルーとは違う科目があって、新しい世界に住んでいる人に会ったような気がしました。
- ◇ 沖縄の中学生はみんな面白い人だった。思ったよりみんなブラジルのことを知っていてびっくりした。
- ◇ 沖縄の中学生のプレゼンが上手で、とても面白かった。
- ◇ ちゃんと制服を着ていたり、礼をしたり、給食の後きれいに片づけていたりして、印象的だった。
- ◇ 沖縄の中学生はとても元気で明るくて、彼らの話す日本語には他の場所にはない表現があると思った。
- ◇ 海外のアニメは東京や横浜の街の学校を見せるので、日本の田舎の学校はどんなところかほんとに知らなかった。生徒の人数の少なさにも驚いたし、教室のいすや机が(想像と違う木製で)驚いた。
- ◇ 沖縄の言葉には沢山の表現があることを知り、びっくりした。話し方もとても違うと思った。



家族の辿ってきた道を知る



2024年1月15日



自分のルーツを探る移住学習

横浜での移住学習では、JICA 横浜にある海外移住資料館や、横浜にある移住に関連した記念碑（ララ物資の記念碑、日本とブラジル修好 100 周年記念の碑、ペルー移住 100 周年記念のリマちゃん像）を歩いて回り、どうして日本人が海を渡り住む場所を変えたのか、移住先国でどのような生活をしてきたのかなど、日本人の海外移住の歴史について学習をしました。海外移住の背景には、よりよい生活や豊かさを追い求めた移住者たちの希望と大きな決意があったことも学習を通して知ることができました。



戦後の日本を支えてくれた ララからのおくりもの

第二次世界大戦後の日本では、みんなが食べるものや着るものに困っていました。そんな日本人たちにララというグループから食べ物や服、薬、靴や文房具などが届きました。ララは Licensed Agencies for Relief in Asia を短くした言い方です。アメリカ人をはじめ、移住した日系人が 1946 年から 1952 年までララ物資を送ってくれました。ララからのおくりものが最初に届いた横浜の港にはララの記念碑があります。



移住学習



研修員の振り返りから

- ◇ 今の私たちが日本文化に触れることができるのは、祖先が苦勞のなかでも次の世代に伝え、私たちに受け継いでくれたからだ。その努力にとっても感動した。それを無駄にしないで私も日本についてもっと勉強して、日本文化を次の世代と周りの人にも伝えたい。
- ◇ 今日は海外移住資料館に行って、プレゼンテーションもした。私は歴史が大好きなので、うれしかった。
- ◇ お金を移ぎに行った人もいたが、新しい生活を求めて移住した人もいました。日本人はよい未来のために移住しました。苦勞したこともあるけど、今はいい人生を送っていると思います。
- ◇ 日系人はコミュニティを形成し、移住した国では日本の文化などを教え、移住した国も最も発展した国の一つになることができました。そして、日本では（日本が戦争や災害で困難な時に）移住した人に助けられました。
- ◇ LARA 物資について学んだ。戦後の日本は崩壊していたので、ララ物資が日本を助けた。
- ◇ 日本人は会話ができなかったりして困ったので、自分の家族やコミュニティを作ったと思います。

家族の歴史・日本文化を次の世代へ...

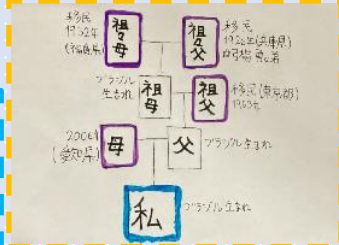
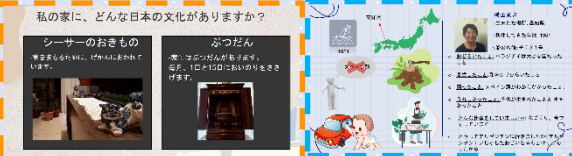
2024年1月15日



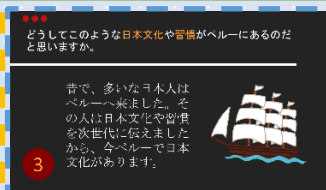
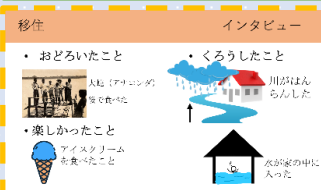
移住者のライフストーリー、受け継がれてきた日本文化から学ぶ

来日前の事前学習として各自が取り組んできた課題の発表をグループごとに行いました。研修員の身近な家族へのインタビューからは祖先の移住にまつわるライフストーリーが浮かび上がり、異なる地域に住む研修員同士が家族の移住という日系人の歩んできた歴史を共有したことで、日系人としてのつながりを感じることができたようでした。また、日本人が世界に進出し生活の基盤を築く中で世界に広がっていった日本文化の考察からは、移住者が大切にしてきた日本の文化や日本人の価値観についても学びを深めることができました。

事前課題の発表を通して、研修員の家族・祖先が体験した「移住」をお互いに学び合うとともに、家族の移住という決断によって今の自分があること、日本人の移動によって現地の社会にもたらされた多様な変化があること、また、移住先の風土・習慣に適応させ形を変えながらも守り受け継がれている日本文化や価値観が存在すること等、お互いの発表から多くのことを学び合うことができました。



おじいちゃんはコチア産業組合の青年移住だったので、最初の二年間は先輩の日本人移住者の農場でブラジルのことを勉強しながらジャガイモ作りを手伝いました。



研修員の振り返りから

- ◇ 移住学習のプレゼンで皆それぞれの家族の移住の歴史を知り、びっくりしたことや違うところがたくさんあった。とても興味深かった。
- ◇ 私は日系4世だが、研修員の中には3世などもいて、印象に残った。ペルー以外の国で日本文化がどのような影響を与えているかわかり驚いた。
- ◇ 移住学習では日系人の数の多さにも驚いたし、みんなの家族のストーリーもとても興味深かった。
- ◇ 僕の街では刺身や日本の野菜が売られていて、日本人の影響が感じられる。
- ◇ 移住した国に日本の文化、習慣、価値観などを持っていき、それを今でも受け継いでいます。
- ◇ ペルーではアセビチャドという巻き寿司があるが、日本の巻きずしとはとても違い、これはペルー料理・日本料理の融合としてとても有名です。

未来に向けた日本の取り組み



2024年1月16日

地球の未来を考えよう



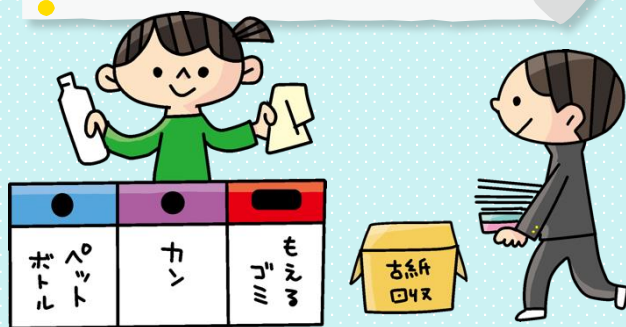
環境学習

日本の環境への
取り組みについて
学びました。



より良い地球の未来を思い描き、すべての人が共に生きられる社会の実現に向けて、どのような知識や考え方が必要なのでしょう？

かわさきエコ暮らし未来館では、自然の力を使ったエネルギーの作り方、ゴミの分別方法、そして地球にやさしい生活について、見学を通して学ぶことができました。JICA 横浜でもゴミの分別をしていた研修員。ゴミ処理施設では分別されたゴミが資源となり、トイレットペーパーや文房具、さらには洋服にまで新しく生まれ変わることを知りました。面倒だと思っていた分別の大切さを改めて理解することができたようでした。



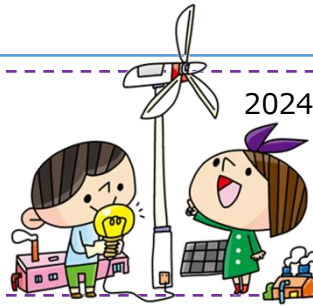
研修員の振り返りから

- ◇ ごみの分別がブラジルとは全然違うことにびっくりしました。再生過程や技術に感動しました。
- ◇ みんなはいろんなごみを捨てるけど、まだ使えるものもあるから、ごみの収集や判別の仕事はとても大切だと思います。
- ◇ 日本の技術はどんどん進んでいるが、リサイクルできないゴミもあるはず。自分でごみをリサイクルできるようになることが大切です。
- ◇ 全てがいらぬものとは思わない。リユースもできます。古い服をマットにするとか。
- ◇ 捨てられたものを燃やすことで生じた熱エネルギーを電力に変える。
- ◇ いらぬ服や糸くずでバッグやポーチなどを作ってアップサイクルできる。
- ◇ ゴミを減らすために、自分のバッグを持っていくなどしてレジ袋を使わないようにしたい。



新しいテクノロジーから 想像する未来の生活

2024年1月16日



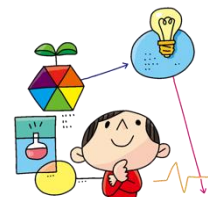
東芝未来科学館



日本の科学技術がどのように
発展してきたのが学習しました



日本の社会課題解決に向けた取り組みやテクノロジー開発について学ぶため、東芝未来科学館を訪問しました。東芝未来科学館では、日本のものづくりの歴史から、社会課題の解決を目指したテクノロジー開発に至るまで、見学を通して学習することができました。



職人の知恵と技術者たちのたゆまぬ努力によって発展してきたテクノロジーが、身の回りにはたくさんあり、私たちの生活を支えてくれていることにも気づきを得る体験となりました。



研修員の振り返りから

- ◇ 昔から今までの技術や機械の歴史がわかってとてもよかったです。からくり人形なども見られてよかった。
- ◇ 今日体験したテクノロジーについてブラジルに帰ってから伝えたい。
- ◇ 東芝で見た自動改札機の仕組みに感動しました。
- ◇ (テクノロジーによって変わる)未来はちょっと怖いけど、楽しみでもある。
- ◇ AIを使って生活や仕事の効率をよくしていくことができます。
- ◇ テクノロジーは生活様式も変えると思うし、リサイクルの方法も変わっていくと思います。
- ◇ 新しいテクノロジーは未来をこんな風に変えると思う：空飛ぶ自動車やエレベーター、タイムマシンなど
- ◇ 全部ロボットがやるのだろうか？まだあまり想像できません。
- ◇ ロボットは人間がやりたがらないことをしてくれます。
- ◇ オンラインで障害を持つ人が操作するロボットについて学びました。これはもう未来です。
- ◇ ポジティブなことに技術が使われる未来を信じています。

研修員に質問！ 日本と聞くと何を思い浮かべる？

- きれいな国、清潔、ちゃんとそうじをする人たち
- 日本の美味しい食べ物をイメージする（ラーメン、寿司、だんごなど）
- 日本の文化（文化を大切にしている、祝日や儀式が多い、折り紙、太鼓、祭りなど）
- 日本の自然、富士山、桜
- テクノロジーがたくさんある、技術が発展した国
- 礼儀正しい、マナーが良い
- アニメ・マンガ
- 神社、お寺、観光場所がたくさんある
- 厳しい、優しい、教育・しつけが良い、敬意がある
- 頑張っている、あまりしゃべらない人たち
- 祖父母の国、歴史のある国、昔の戦争、サムライ…

ドキドキ・わくわく体験入学

2024年1月17日



横浜市中区内の大鳥中学校、仲尾台中学校、本牧中学校、港中学校、横浜吉田中学校の5校にて、3日間の体験入学をしました。

初日の朝は「緊張して眠れなかった」「お友だちできるかな」「日本語でちゃんと話せるかな」と緊張した面持の研修員でしたが、学校から戻った研修員は「中学校がすごく楽しかった！」と満面の笑みに変っていました。先生やクラス・部活動のみなさんが自分たちをやさしく迎えてくれたことが嬉しかったと話す研修員は「明日も学校が楽しみだな」とわくわくしながら翌日の準備をしていました。



大鳥中学校

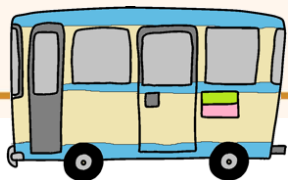


仲尾台中学校



本牧中学校

中学校 体験入学



港中学校



横浜吉田中学校

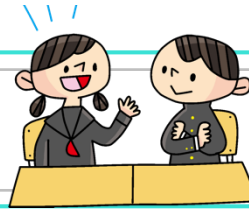
研修員に質問！ 「友だちはできたかな？ どんなことを話した？」

- 自分の国のことをたくさん聞かれたので、国のことをたくさん話しました！
- 自分の学校と日本の学校の違いについて話しました。
- よく聞く音楽や歌のこと
- どうやって友達とメッセージをやりとりしているのか
- 自分の国の食べ物のこと
- 趣味や日本の中学生はどんなことをして過ごしているのかなど
- スポーツのこと（バレーボールやサッカー）
- スポーツ選手について（メッシやネイマールについて）

- いちばん好きな日本の食べ物
- どんなふうに自分の学校で勉強しているか
- 自分の名前について
- 授業のこと、宿題のこと
- YouTube のことや、推しのこと
- 自分の国と日本で違うことや同じこと
- 食べ物や文化のこと
- 自分の国の祝日やお祭りなど
- 部活のこと
- ゲームやアニメのこと



中学校体験入学を終えて



2024年1月17日～19日

毎日、その日にあった学校での出来事や、授業・部活動での体験、クラスメイトについて楽しそうに報告し合っていた研修員たち。

日本語を使わざるを得ない環境に身を置き、クラスメイトや先生方に支えられ過ごした体験入学は、研修員にとって忘れられない3日間となり、大きな自信にもつながりました。

お世話になった学校のみなさん、本当にありがとうございました！

日本の中学生との 出会いと交流



日本の学校のいいところ、 自分の学校に持ち帰りたいこと



- ◆ 授業後に教室や廊下を掃除すること
- ◆ 技術や家庭科などで本当に物を作ること、
- ◆ 座学だけではないこと
- ◆ 授業の時間が短くて、科目にバリエーションがあること
- ◆ 技術・家庭科の授業について紹介したい（料理や木工、裁縫など、生活で使う力は学ぶ価値のあるものだから）
- ◆ 日本の生徒たちのやさしさ
- ◆ 全部。先生の教え方、やさしい生徒、給食など
- ◆ パソコンや部活動を紹介したい
- ◆ 柔道や剣道があること
- ◆ みんなが一緒にがんばるところ
- ◆ 平等なところ
- ◆ 部活があって、先生の説明がわかりやすいところ
- ◆ 時間を守ること

自分の学校のいいところ、 日本の学校に紹介したいところ

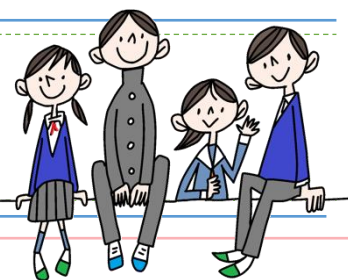
- ◆ 日本の学校はお昼ごはんの時間が短すぎるので、長くするよう提案したい（日本は15分、ブラジルは1時間半）
- ◆ 自分の学校にはコーラスグループや演劇の授業もある
- ◆ 自分の学校にある教会と教室がとても気に入っているの、紹介したい
- ◆ 日本の学校にも「Theory of Knowledge」という科目があったらいいと思う



中学校体験レポート

研修員の振り返りから

2024年1月17日～19日



学校や体験入学での体験について

- ✦ 担任の先生はとても親切に手伝ってくれた。あまりうまく話せなかったけど、生徒たちが話してくれて、授業中に助けてくれた。何もわからなかったのもとても感謝している。
- ✦ 男子がとても盛り上がり話している様子を見てびっくりした。ブラジルの雰囲気似ていると思った。
- ✦ 百人一首でカルタを取るスピードが速くてすごいと思った。私も暗記してみたいと思うほど盛り上がった。
- ✦ 日本語を練習して、新しい食べ物も食べた。友達もできて、明日も学校に行くのが楽しみ。
- ✦ 音楽などの実技が体験できてよかった。
- ✦ 中学生はやさしく、手伝ってくれた。日本の中学校にはみんなのなかに連帯する気持ちを感じられる。
- ✦ 授業でキーホルダーを作ったり、新しい漢字を学んだり、火山岩や深成岩について学んだり、サッカーもしたり、いろいろな科目がある。
- ✦ 心配していたけど、みんな優しくかった。私が日本語を知らないとなると先生や同級生が Google 翻訳で話しかけてくれてとてもよかった。
- ✦ クラスメイト達は騒がしいが、いいクラスで、クラスメイトと話すこともできた。先生たちもみんないい人。
- ✦ 中学校の設備がアニメのままで感動した。
- ✦ 吹奏楽部の演奏がとても上手だった。
- ✦ 日本の学校はやはりもっと近未来です。
- ✦ 日本の学校は整然としていた。みんな優しく、挨拶してくれるので、不安が和らいだ。
- ✦ 授業で中国のことを勉強した。大都市が海や川の近くにある理由について考えた。
- ✦ 国語で漢字の意味を覚えた。心を忘れる→忙しい、というのが面白かった。
- ✦ 国語の授業で中国語をならった（漢文の学習）。びっくりした。
- ✦ 先生がとても熱心な人で、毎日の出来事を漫画にしてくれることがとても興味深かった。
- ✦ 中学校で新しい世界を見た。部活動の多様さが一番印象に残った。みんな、部活動のある日本の学校に行きたいと言っていた。
- ✦ 日本の学校のいいところは、みんないい人で、やることをちゃんとしていること。先生もいい先生。
- ✦ 女子バレーの子たちがとても親切で驚いた。先輩と呼んでいる後輩がいて、とても日本ぽいと感じた。
- ✦ 日本の学校は社会で仕事をする準備をしている感じ。
- ✦ 数学が一番嫌いな科目なのに、今日の数学の授業はとても楽しかったのも、意外だった。先生がとても分かりやすく教えてくれた。
- ✦ 美術、技術、理科、武道などにつかう特別教室があることに気づいた。
- ✦ 日本の生徒はいつ遊んでいつ静かにすべきかをわかっていて、とても良いことだと思った。
- ✦ 非常に具体的なところまでルールがあり、毎日新しいルールを発見している。教室の掃除方法にすらルールがあった。
- ✦ 生徒は日本人だけでなく、中国人や韓国人、ベトナム人もいた。
- ✦ 生徒たちはすべてのものを使う前のように整頓していた。
- ✦ 学校の制服のほかにも、体育の制服もあった。
- ✦ 授業時の号令があることにも驚いたが、授業間に休みがあるのも驚いた。
- ✦ 休み時間は短いのにみんなは全然時間に遅れない。
- ✦ 教室で生徒がパソコンを使っていたり、先生がやさしいところは、私の学校と全然違う。
- ✦ 今日の給食はとてもおいしかった。
- ✦ 科目が理解できないことへの不安や友達と話せるかといった不安もあったが、最後はみんなと別れるのがさびしくて泣いてしまった。
- ✦ 今日は百人一首の大会があり、とても楽しかった。
- ✦ また友達にいつか会いたい。また部活がしたい。
- ✦ プレゼントのなかに手紙があって、それを読みながら泣いてしまった。中学校での3日間はとても楽しかった。
- ✦ 文化も学びました。みんながいなくて寂しいです。この経験が気に入りました。
- ✦ 今日は体育でソフトボールをやったのもとても疲れた。そして中学校の仲間がとても恋しい。



ホストファミリーとの1日交流



2024年1月20日

研修員が楽しみにしていたホストファミリーとの交流。ホストファミリーのみなさんは、地球の反対側からはるばるやってきた研修員が日本の生活を少しでも体験できるようにと、日本の文化体験やお出かけの計画、食事の献立まで、いろいろな計画を立ててくれました。ホストファミリーと一緒にたこ焼きや手巻き寿司を作ったり、地域の集まりに参加したり、バッティングセンターや日本のスーパーへお出かけたりと、研修員は様々な日本の生活を楽しんで戻ってきました。1日の終わりには、「もっとホストファミリーと一緒にいたかった」との声が聞かれ、ホストファミリーと別れを惜しむ研修員の姿があちこちで見受けられました。短い時間にもかかわらず、研修員の心に残る温かい交流をしていただいたホストファミリーのみなさん、ありがとうございました！



研修員の振り返りから

- ◇ 日本語だけで頑張って話しました。一つずつは短いけど、日本語でコミュニケーションがとれてうれしかった。
- ◇ 近くの公園で祭りがあり、太鼓の発表やたくさんの屋台を見ることができた。
- ◇ ヒッポファミリークラブにも行って、いろいろな言語でゲームをして言葉を学びました。
- ◇ たこ焼きを食べたり、ガチャポンを回したりした。しりとり遊びをしたり、LINE を交換したりした。一日しかなくて残念だったが、楽しい思い出が作れてよかった。
- ◇ 日本人と話すのはとてもよかったです。天気はくもりだったので富士山やスカイツリーは見えませんでした。たこ焼きやおでんを食べたり、日本庭園にも行きました。
- ◇ ホストファミリーは学校の先生だったので、日本の教育についていっぱい話しました。
- ◇ プリクラを撮りました。小さい子供がとてもかわいかったし、こたつにも入れてとても温かったです。
- ◇ クスクスを作りました。レシフェの食べ物ですので、ホストファミリーの家で紹介しました。
- ◇ ホストファミリーとバッティングセンターに行ってボールを打ってみたけど、とても難しかった。お父さんとお母さんはとてもやさしくて、いつも私のことを心配してくれて安心できました。
- ◇ ホストファミリーと予定を考えて話し合い、悩んだすえにアイススケートに行きました。アイススケートは初めてで難しかったです。最後はたこ焼きパーティーをしてお別れをしました。とても思い出に残る一日でした。
- ◇ 日本語で自分の考えを伝えることができ、うれしかったです。日本人の生活も理解でき、満足しました。日本人と一緒に過ごすことで、目標が達成できました。
- ◇ スーパーマーケットや猫カフェに行きました。お昼や夕ご飯はホストファミリーのおうちで食べました。
- ◇ 今日はホストファミリーと一緒に楽しめて本当に良かった。お別れは少し寂しいけど、いつかまた会いたい。



歴史と文化を感じる旅



2024年1月22日～24日

これから始まる研修旅行に期待がふくらむ研修員たち。新横浜から新幹線に乗り、約2時間半。あっという間に大阪に到着です！大阪城では、大阪城担当のガイドグループが、大阪城の歴史やお城の役割について、クイズも交えながら、調べたことを発表してくれました。とてもわかりやすい説明を聞きながら、大阪城公園内を全員で散策しました。散策後は、天守閣内を見学し、展望台へ。お天気にも恵まれ、大阪の街を一望できる展望台からの眺めは格別でした。



研修員の振り返りから

- ◇ 大阪城はとても大きく、となりの豊国神社はとてもきれいでした。
- ◇ 大阪城についたとき、自分がまるでテレビ番組の中にいるように感じました。
- ◇ お城についての説明を聞いた時、本当に感心しました。何回も再構築するって素晴らしいです。昔の日本、日本の歴史を感じました。
- ◇ 今日は朝8時から大阪に新幹線で行きました。昔の人たちが城を作っていた様子や、偉い人の人生を見ました。お城にいろんな面白い工夫をして、自分たちのお城を守っていました。お城がつけられた時代を考えると、すごいと思います。
- ◇ 大阪城ではグループの発表を聞きました。大阪城ができた歴史はとても興味深いし、景色が良かったです。
- ◇ 大阪城の工夫：敵より上をとる、敵の背後を狙う、城の構造を迷路みたいにする。逃げ道を作り、地下も作る。トラップを作って攻め込まれないようにする
- ◇ 大阪城はとても広くて大きかったので、迷子になりそうでした。
- ◇ 今日は新幹線に乗って、日本の風景を体感することができました。今晚から日本風のホテルにも泊まって、慣れるよう頑張ります。
- ◇ 初めて新幹線に乗りましたが、想像以上に速くてとてもびっくりしました。
- ◇ 新幹線は電車と比べてガタガタしないし、とても速い。歴史はあまり得意ではないですが、いろんなところを見れて楽しかったです。
- ◇ 旅館で大浴場に初めて入りました。あたたかかったです。
- ◇ 旅館のご飯がおいしかったです。日本の牛肉はとてもおいしい。

研修旅行中は京都にある旅館に宿泊しました。大きな畳の部屋に布団を並べて寝たり、みんなで大きなお風呂に入ったり、浴衣を着てみたり…と、研修員にとって日本の旅館での体験は初めてのことばかり！忘れられない思い出がたくさんできました。

旅館、大浴場、たたみ、お布団…
はじめてがいっぱい



古都、京都の魅力を満喫



2024年1月22日・23日



1日目の夜は、伝統的な京都の和菓子作りを体験しました。四季折々の自然を表現する練り切りの奥深さに感銘を受けた研修員たち。職人の技に倣い、研修員も水仙と雪景色を表現する練り切り作りに挑戦しました。慣れない手作業に苦労した研修員もいましたが、完成した芸術的な和菓子に満足した様子。初めて作った練り切りのお味は？



京都



京都では金閣寺、下鴨神社、清水寺、伏見稲荷大社をめぐるしました。事前学習で調べたその場所にまつわる歴史やエピソードなど、研修員たちがガイドとなり紹介をしました。

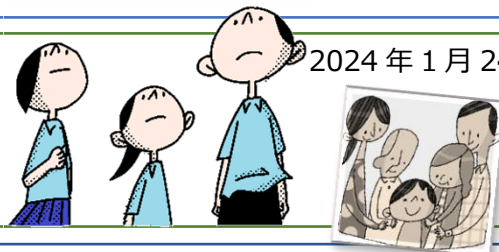


研修員の振り返りから

- ◇ 和菓子は水仙のほうが作るのが難しかったです。雪景色のほうが少し簡単でした。
- ◇ 和菓子は季節をあらわし、きれいな形を作っているの、とても日本ぽいなと思いました。和菓子を作るのに10年や20年修行するのはすごいと思います。
- ◇ 和菓子は日本食の一部で、自分で作って食べることができてとてもうれしかったし、おいしかったです。いろんな日本文化を学べてよかった！
- ◇ 京都では覚えることがたくさんありました。たくさん歩いて疲れたけど、日本のことをもっと学ぶことができました。
- ◇ グループごとの名所のガイド(発表)が面白かったです。
- ◇ 歴史的建造物がきれいであることに加えて、保存状態が良いことに驚きました。
- ◇ 人々の努力のひとつは道にゴミを散らかさず、清潔に保つことで、それによって京都の景観や近隣の環境が守られていると思いました。
- ◇ お寺や神社によってさまざまなご利益があることを学びました。
- ◇ 京都の街並みを残すために、ものに触らないとか、写真を撮らないとか、立入禁止といったルールを国宝のところでたくさん見ました。
- ◇ 前の世代から次の世代へ文化と物語をちゃんと継承していることがわかりました。
- ◇ 高い建物を建てないことや、看板の色を派手にしないことを学びました。
- ◇ 伏見稲荷大社は頂上まで行く時間がなかったが、鳥居が本当に多くて驚いた。すこし迷子になった。また来ててっぺんまで登りたい。

どのような覚悟をもって 日本人は海を渡ったのか

2024年1月24日



研修旅行最終日は、神戸にある「海外移住と文化の交流センター」を訪問しました。ここは南米に移住する人たちが準備のために実際に宿泊をしていた場所です。以前は長崎と横浜にも移住者が宿泊した場所がありましたが、現存している建物はここ神戸だけとなりました。実際にこのセンターで移住の準備をした家族がいる研修員たちは、このセンターで撮られた家族の写真を見せ合いながら、感慨深げに施設内を見学し、当時の移住について想像を巡らせていました。見学後には、研修員も出発前の移住者と同じ場所に立ち、写真撮影をしてから神戸港へと出発しました。



研修員の振り返りから

- ◇ 海外移住と文化の交流センターでの学習はとても面白かった。再現された船のベッドはとても硬く、床で寝ているみたいでした。いろんな使った道具が展示されていてびっくりしました。
- ◇ 祖父の移住記録がきちんと残っていてすごいと思いました。
- ◇ 自分だったら、移住先の家や学校はどうだろうかと心配になってしまうだろうと思います。
- ◇ 曾祖父の乗った船を見ることができました。ミュージアムの先生はとてもやさしかったです。
- ◇ 移住センターでは買い物や手続きをしたり、外国語などの講義や検査を受けたりして準備をしたと知りました。
- ◇ ドラム缶の中に荷物を入れて船にのせ、ブラジルについてからそのドラム缶をお風呂にしていました。
- ◇ 移民の歴史はとても悲しく、むずかしいです。私の祖父母の話はとても長いです。でも日本人の歴史が好きです。
- ◇ 移住センターでは、船になれるための訓練をしていたそうです。港までは戦前は歩いて行ったけど、戦後はバスで移動したそうです。自分だったら、他の国で新しい生活を始めるという考えは好きです。

研修員に質問！

日本に来てびっくりしたことは？



- 道にゴミがないこと、道路がきれい、きれいな国、きれいな景色、きれいな空港 (9票)
- 美味しい食事、お弁当 (7票)
- とても安全な国、安心できること (4票)
- 自動販売機、コンビニがたくさんある (4票)
- 自動トイレ、テクノロジー (4票)
- 授業内容、教育、日本の中学生 (3票)
- 組織化されている、ルールが守られている (2票)
- 人がやさしい、フレンドリー (2票)
- 挨拶の仕方、日が暮れるのが早い、日本の空気、日本の建築物が日本らしくなかったこと (各1票)

移住者の足跡を辿って…



2024年1月24日



海外移住と文化の交流センター



ブラジル国花イペーの木
とモニュメント



ブラジルの教会を
イメージした交番

神戸港移民船乗船記念碑



移住坂(鯉川筋)



神戸港

神戸港震災メモリアルパーク

昼食後は海外移住と文化の交流センターから神戸港まで、実際に船に乗り込んだ移住者の足跡を辿り、「移住坂」と呼ばれる坂道を下りました。神戸港に面するメリケンパークには、「神戸港移民船乗船記念碑」という像が海に向かって立っています。親子が見つめる先には移住先の土地があり、希望の船出を象徴しています。

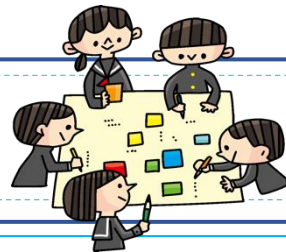
当時の移住者が立ち寄った場所に立ち、研修員はどのようなことを感じたでしょうか。移住した人々の当時の心境に想いを馳せる研修員たちでした。



研修員の振り返りから

- ◇ 港まで歩いていたら、不安でこわいという気持ちも、わくわくした期待もあったと思います。複雑な気持ち。いろんな気持ちを感じたと思いました。
- ◇ 昔たくさんの方が別れの日に移住する人を見送りました。ブラジルと日本をつなげている海を向いている像をみて、感動しました。
- ◇ 港までの道のりは、希望と苦しみがあったと思います。新生活を試すのはいいことだけど、故郷から離れるのはとても苦しいことだと思います。
- ◇ 緊張して寂しい気持ちになったと思います。自分だったらうれしくない。知らない場所に行くために愛する人たちと別れるのはとても悲しいからです。
- ◇ 自分だったら、移住するとき、悲しく寂しい気持ちを感じると思います。でも新しいことを学ぶのを楽しみにすると思います。
- ◇ 日本人たちは神戸の港へ行ったとき、多分緊張したと思います。なぜなら、日本から出て行って知らない場所へ行くのはたぶん悪いことだと思いますから。自分だったら、ブラジルからどこか別の国へ移住したらちょっと悲しい気持ちになると思います。ブラジルが好きでさみしくなりますから。
- ◇ もし日本人が今までどこにも行っていなければどうなっているのだろうかと考えました。
- ◇ 神戸の地震があった場所に行きました。地震の跡が意外とひどくて、今は観光地になっていますが、昔地震が起きたと思うとちょっと怖くなります。
- ◇ 神戸の港はとても美しく、そのことを地元のお年寄りと話しました。
- ◇ 自分が移住者だったら、移住するときは緊張すると思うけど、お気に入りの場所を是非見つけてみたいと思うだろう。

日系の先輩を迎えて



2024年1月26日

日系の先輩を講師として迎え、日系アイデンティティについて考えるワークショップを行いました。先生はブラジルの馬田さんとオオヌキさん、ペルーのタイベさん、ボリビアの仁田原さんです。「日系バスケット」や「日系すごろく」といったアクティビティを通して、日系人としての共通点をたくさん発見していきました。日系人だからこそ感じてしまう悩みやプレッシャーについてもグループで考える時間を持ち、各々の体験や悩みを自己のユニークな強みへと変容させていくヒントを学びました。日系のバックグラウンドを持ち、研修員の一步前を歩む留学生だからこそ実現した、研修員の気持ちに寄り添い勇気を与えてくれるワークショップでした。



ようこそ、先輩！



日系の先輩たちと「日系人であること」について考えました。良い面は仲間と共に喜び、悩みは一緒に解決策を考えました。

日系人の強み、いいなと感じているところ

- ◆ 日本語を話せる機会がある、自国の人とあまり知らない言葉（日本語）を話せる、コミュニケーションの選択肢が広がる、アニメを日本語で見ることができる、字幕が間違っていることがわかる
- ◆ 日本ではない国に住みながら日本文化の中で育つことができる、様々なライフスタイルに触れることができる
- ◆ 日系人なので「やさしい人」だと思われる
- ◆ 日本の食べ物をいつも食べることができる、日本食の作り方がわかる
- ◆ 日系のコミュニティの仲間になることができる、たくさん友達ができる
- ◆ 日系の学校やコミュニティでスポーツやアクティビティができること

日系人だからこそ感じる悩みや、いやだなと感じること

- ◆ もっと頑張って勉強しないとスペイン語も日本語もちゃんと理解できない、二つの言語を理解するには他の人より勉強しないとイケない、日本語が話せても世界の多言語話者で日本語を話せる人は少ない、英語に比べると日本語はほとんど使われない、いつも「日本語でこれは何というの？」と聞かれる
- ◆ ステレオタイプに関すること：日系人はみんながアニメオタクだと思われる、勉強しからない人だと思われる
- ◆ 自信が持てないこと、違和感があること
- ◆ 初めて会った人に中国人と言われる、思われる
- ◆ 笑うと目がなくなること
- ◆ からかわれる、バカにされること、いじめられる、日系人の食べ物や話し方やすることについていじめられる
- ◆ いつもどちらかを選ばされる
- ◆ 家族や知人からの期待が大きい
- ◆ 家族・親戚に会えない

研修員の振り返りから

- ◇ 午前のゲームは本当によく考えられていると思った。自分たちのためにいろんなゲームやプレゼンテーションを作ってくれたところが、先輩だなと思いました。
- ◇ いろんな先輩が来て移民について話したり、発表してくれました。とても楽しくて、いろいろ学びました。
- ◇ 先輩たちに会えてうれしかったです。私たちのために本当に楽しいクラスを準備してくれました。
- ◇ 授業は楽しかった。とくに日系バスケットというゲームは楽しかった。
- ◇ 日系バスケットのゲームがとても楽しかった。「あるある」と考えさせられる言葉がたくさんありました。
- ◇ 午前の授業で自分と仲間の中学生にたくさん共通点があることがわかりました。うれしかったです。
- ◇ ゲームを通じて、みんなのことをもっと知ることができてよかったです。留学生の皆さんともいろいろ交流できてものすごく楽しかったです。
- ◇ 自分と仲間たちには、とても似たような日本の習慣があります。
- ◇ 私たちは全く違うところに住んでいるのに、似たような習慣があるのに気づきました。
- ◇ 行動、食べ方、考え方、目、良い人であること、友好的であることが共通点でした。

2024年1月26日

学校訪問と部活動体験



横浜市南区にある南中学校を5時間目から訪問し、授業と部活動を体験させていただきました。学校到着後、すぐに飛び込んだ5時間目の授業では、緊張していた研修員でしたが、部活動の時間になると部員のみなさんからのサポートもあり、笑顔が見えてきました。

南中学校には、柔道、剣道、和太鼓、茶道、囲碁といった部活動もあり、8つの運動部、7つの文化部がそれぞれ熱心に活動をしていました。日本の学校にある部活という文化に興味津々な研修員は、希望した部活動に入部してもらい、部員のみなさんと先生に色々教えてもらいながら、部活動を体験してきました。部活動を体験した研修員が驚いていたのは、日本の中学生が自分たちで活動メニューを考え、自主的に活動に取り組んでいることでした。真剣に部活動に取り組む日本の中学生の姿は研修員の心に強く残ったようでした。

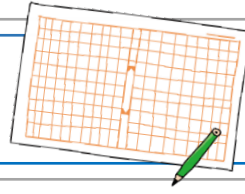
お忙しい中、受入れにご協力いただきました南中学校の皆さま、本当にありがとうございました！



研修員の振り返りから

- ◇ 南中で園芸部をしました。花に水をやって、土に肥料をかけました。楽しかった！
- ◇ 部活の人たちとは将棋という共通点もあるので話せました。囲碁はルールがわからなかったのが教えてもらい、できるようになりました。プレイ中、ちゃんと考えてコマずつ進めていたので、部活の人たちはすごいと思いました。
- ◇ 生徒たち全員が研修員を優しく受け入れてくれて、感動しました。
- ◇ 部活は剣道をしました。とても楽しくて、部活の人たちもとても親切でした。
- ◇ バスケ部で工夫してボールの使い方を考えながら練習しました。私もバスケをやりたいと思いました。
- ◇ 日本の中学校で見た「将来の夢」「新たな目標」が一番頭に残った言葉でした。
- ◇ 私はパソコン部を選びましたから、タイピングが早く上手になりました。
- ◇ 吹奏楽で2つの新しい楽器を演奏してみた。とても難しいと思ったけれど、同じくらいとても楽しかった。
- ◇ 音楽の授業でアジアの楽器(琴)に触れることができた。とても楽しくていい経験だった。
- ◇ 茶道部では、お茶は音をたてて飲むもの、ということにびっくりしましたが、とても丁寧に教えてもらってとても良かったです。
- ◇ 水泳部では、最初は筋トレをすると聞いてすごく嫌でしたが、いざ行ってみるとすごく楽しく、みんな優しくだったのでいい思い出になりました。でもすごく疲れました！
- ◇ 美術部はみんな絵を描くのがうまかったです。みんな優しく楽しかった。数学はむずかしいです。
- ◇ 学校の部活動で身につく力や得られる体験は、初めてのことに挑戦することや、健康、強さ、経験が習得できると思いました。
- ◇ 部活を通して、友情や楽しみが得られます。
- ◇ 部活動があると、社交的になり、たくさんの人と友達になれます。スポーツに挑戦するのは本当にクールです。
- ◇ 部活動で規律やオーダー(指揮・命令)を学ぶことができると思いました。
- ◇ 部活動で、チーム力、性格、力、自尊心、信頼が得られると思います。

想いを言葉にのせて



2024年1月25日・29日

約3週間にわたる日本での研修で、研修員たちは何を感じ、考えたのでしょうか。国語の授業では、作文の書き方を復習するとともに、印象的な体験や自国の人に伝えたいことなど、自分たちの思考を整理しながら作文を書きました。文章を生み出すのは苦しい作業でしたが、国語の柳下先生をはじめ、ヘルプに駆けつけてくれた和美先生、渡邊先生、日系の先輩たちのおかげで、なんとか全員が作文を仕上げることができました。



研修員の振り返りから

- ◇ すごく疲れたが、作文の勉強などいろいろ学んだ。サポートしてくれた先生たちもすごく優しくて頭がいい人でした。
- ◇ 僕は作文が苦手でしたが、新しいことを楽しく学んだからもっと興味を持つようになりました。
- ◇ 今日はもしかすると最も多く漢字をかいた日。疲れた…！三時間あったのに、6時になっても終わらなかった…。
- ◇ 今日は研修中に見聞きしたものの、すべてを振り返る機会だった。仲間たちと過ごした日々を思い出して、とても幸せな気分になった。
- ◇ 作文を書き終わり、私にとっては完璧でしたが、先生はそうは言いませんでした。難しいことを伝えようと試みたからでしょうか。なぜ日本語で思考を伝えることは難しいのだろう。でも最終的に、作文の結果を見て、満足しました。
- ◇ 最初の文とタイトルはとても重要だと思います。人々の注目を集めるものでなければなりません。
- ◇ 作文自体はそこまで難しくないが、何回も書き直したり、量をたくさん書くのが大変でした。
- ◇ この研修で過ごした出来事やアイデアを出しながら一日過ごしました。少しめんどくさかったけど、過ごした思い出を考えながら書きました。あとで、考えすぎて頭が痛かったです。
- ◇ 作文を書くのは疲れたけど、必要なことでした。
- ◇ 今日の国語は楽しかったです。
- ◇ 作文を書くのは難しい。言葉が出てこない。どう説明すればいいかわからなくなります。
- ◇ 作文を原稿用紙三枚以上かけたことにびっくりした。



研修員に質問！

知っている日本の歌、好きな日本の歌は？

- 花に亡霊、水平線、あの夢をなぞって、THE HERO、ドキメキダイアリー、たましいの色は何色ですか etc
- 夜に駆ける、群青、怪物、(YOASOBI) ■ Story (AI)
- Magic、青と夏 (Mrs. Green Apple) ■ Alice in N.Y.
- 祈り花 (平井大) ■ 唱 (Ado) ■ 初音ミク、カイト
- 鬼滅の刃の曲 (紅蓮華、炎) ■ キセキ (GReeeeN)
- 光るなら (Goose house) ■ スパークル (RADWIMPS)
- ジブリのうた (ハウルの動く城、トトロ、君をのせて)
- 悲しみにさよなら (安全地帯)
- しまんちゅうの宝 (BEGIN)、英雄の詩 (THE ALFEE)、英雄 (doa)、君だけを守りたい (ウルトラマンダイナの曲)
- 真夜中のドア～Stay with me (松原 みき)
- ベテルギウス (優里) ■ 瞳を閉じて (平井堅)
- レモン、灰色と青、パプリカ (米津玄師)
- 貴方の恋人になりたい (チョークキューメイ)、死ぬのがいいわ (藤井風)、愛を伝えたいだとか (あいみょん)
- 東京音頭 ■ ブルーバード (いきものがかり) etc.

研修員の作文から



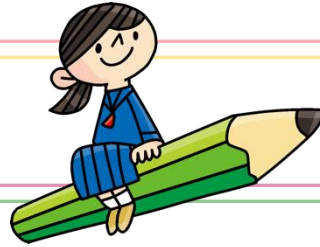
移住学習について

- ◇ 私たちの祖先がやってきたことが、日本ではミュージアムになっているのを見て驚きました。JICA や神戸のミュージアムでは、写真やたくさんの人たちのインタビュー、教科書など、細かい資料が残っていて、展示されているのを見て感心しました。当時の様子を再現し、たくさんの工夫をしながら、わかりやすく日系ではない人にも伝えたいという気持ちがあったからです。
- ◇ 私たちの祖先が戦争や経済危機のせいで、海外に移住しました。そしてお金を稼いで日本に帰るつもりでした。でもその国の文化が大好きになったことがその国にずっと住んだ理由だと思います。日本人は何回も何回も転んだけれども、あきらめなかったから私は日本人がとても強い人だと思っています。
- ◇ 日本で日本の移民の歴史を学びました。まず、移民のプレゼンテーションを作って JICA の研修生に発表しました。それをするために祖母にインタビューをしました。僕は祖母に移住についてたくさん質問をしました。たとえば、旅行はどうだったか聞きました。祖母は「船の上にいる時間が長く感じた」と言っていました。インタビューが終わったとき、良い印象を感じました。インタビューに加えて、神戸の見学では、船旅がどのようなものだったのか学びました。船の中がどのようなものか、そこで何をしていたのか学びました。移住についてもっと学びましたから、神戸への研修旅行はとても良い経験になりました。
- ◇ 神戸にある海外移住と文化の交流センターでは、移住者たちが出発前に玄関や屋上で撮った写真が展示されていました。私たち研修員も同じ場所で写真が撮れて本当に良かったです。私はその場に立って、「ここから私の祖父母たちが南米のパラグアイに行ったんだな」と思いました。私は移住の歴史を学んだことで祖父母たちのルーツをもっと学ぶことができました。
- ◇ 移住の話聞いていちばんびっくりしたのは、船の中で運動会や祭りが行われていたと聞いた時です。私はそれを聞いて楽しそうだなと思いました。でも本当は、今では想像ができないくらい大変だったということも知りました。移住者が一生懸命頑張って働いてくれたおかげで、今私たちは平和で楽しい生活を送っているのだと思いました。

中学校体験入学について

- ◇ 日本の中学校で日本はどんな国なのかがよくわかるようになりました。ブラジルの中学校と比べたとき、色々な違いを見つけました。日本の教え方、規律、正しい礼儀など、それは全て日本にしかないことだと思いました。
- ◇ 三日間の体験入学で生徒たちと一緒に勉強して、日本人は不思議だと思いました。なぜなら彼らは、普段はとても元気で、時にはうるさいと思うこともありましたが、いちばんびっくりしたことは、授業の始まりを示すチャイムが鳴った瞬間に、みんな勉強に夢中になるからです。
- ◇ 日本の中学校へ勉強しに行きました。その中学校ではたくさん友達をつくったり、日本語と日本文化をもっと知ったりしましたから、良い体験でした。僕にとって、中学校でいちばん難しいことは国語の授業でしたが、わからないことがあったとき、友達が手伝ってくれました。彼らにはとても感謝しています。これがぼくが日本の研修についてもっとも気に入っている点です。
- ◇ 日本の教育とブラジルの教育の違いを感じました。テストの前の復習や部活の練習では、みんなお互いに教え合っていて感動しました。
- ◇ 日本の中学校はブラジルとはとても違いました。日本の学校は実践的な授業が多いけれど、ブラジルは聞いたり書いたりする授業です。私が一番楽しめた授業は技術でした。キーホルダーを作りました。

研修員の作文から



2024年1月29日

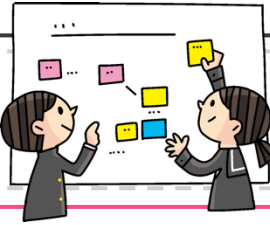
日本での研修生活について

- ◇ グループ活動は大変でしたが、この研修の仲間とできたことに満足しました。この JICA の研修でできた仲間は私と同じ日系人です。彼らと一緒にいるのはとても居心地がいいです。
- ◇ 日本とブラジルの生活の違いに気づきました。バスから日本の子どもたちが自分で学校へ行くのを見ました。ブラジルでは、子どもたちが自分で歩いていくのはあまり安全ではないことなので驚きました。
- ◇ 研修では、自分の持っているお金を管理し、スペイン語を話す友達ともコミュニケーションをとることができ、外国にいる両親がいなくてもやっていけることに気づきました。これはとても良い経験でした。日本文化と日本人が受ける教育、特に敬意に関する教育をブラジルの友達に見せたいです。
- ◇ この研修で私は色々なことを学び、今までわいてこなかった色々な感情を得たり、新しい友達をたくさん作ったりすることができました。日本で学んだことをできるかぎりアルゼンチンへ持って帰れたらいいと思います。
- ◇ 日本人の使うものや生活スタイルはすごく持続可能だと思います。たとえばゴミの分け方やゴミを電気に変える方法、日本人が使う電車の改札、歯車で動く人形、様々なものが日本人の毎日に影響していることに気づきました。

プログラムについて

- ◇ アイスブレイクでは話したことの無い人と近づくことができました。一つ、先生が言っていたことが特に心に残りました。「みんな必ず同じところを持っている」ということを、この活動で実感することができました。違う国でもみんな笑い合っているのを見て、相手を知ることで仲良くなれる、言葉の壁を乗り越えて相手を知ろうという気持ちを大切にすること、そして必ず同じところが見つかるということを学びました。
- ◇ ホストファミリーと浅草と渋谷へ行きました。一緒にいると本当のお姉ちゃんみたいで楽しかったです。ホストファミリーは日本の文化を教えてくださいました。神社での参拝のやり方やおみくじについて学びました。その日はホストファミリーと日本語を話せるようにがんばりました。最後のお別れは少し悲しくなりましたが、その日やったことは全て覚えています。
- ◇ 研修旅行で関西の有名な観光地の大阪城、清水寺、金閣寺、下鴨神社、伏見稲荷大社に行って、NHK の番組の中のように感じました。この五つの観光地の中で清水寺が一番気に入りました。その理由はお正月の日に NHK のスペシャル番組が毎年あり、清水寺がいつも映っていました。そのため、清水寺に行きたい気持ちを持っていました。
- ◇ 研修旅行では日本人の生活も学びました。布団で寝たり、友達と一緒に温泉に入ったりしました。はじめはちょっと恥ずかしかったけど、あとで楽しい経験になりました。
- ◇ ブラジルには裸で温泉に入る文化はありませんが、日本にはあります。研修旅行の京都で温泉に入りましたが、私はとてもいい文化だと思いました。温泉は人と人の距離を近づけてくれるので、友達になりやすいと思います。
- ◇ 研修旅行で行った神戸で 30 年前の地震の後、町を建て直す仕事をしている人と話しました。話を聞いて、日本人の頑張れる気持ちはすごいと思いました。日本は地震のプレートが重なるところにあり、戦争の被害がありながらも、社会的に優れた国になっているので、僕の国のブラジルはこれを目指すべきだと思います。
- ◇ 京都にある和菓子屋で和菓子作りを体験しました。作った和菓子の名前は水仙と雪景色です。その二つの和菓子はあんこできていて、舌触りはなめらかでした。すごく甘くておいしかったです。職人たちは和菓子を作るのに五年から十年ぐらい練習をしているそうです。この体験で和菓子を作っている人たちのこだわりが感じられました。

研修の成果を発表!



2024年1月31日



研修員たちはこの一か月での学びと成果について、グループごとにプレゼンテーションを準備し、報告会で発表しました。

「日本で学んだことを学校や友だちにも伝えていきたい」と話していた研修員たち。帰国後は現地のJICA事務所でも研修報告をすることになります。この研修での学びを多くの人にしっかりと伝えていってほしいと思います。



研修員報告会



ゴミの焼却ルート



01 科学(東芝未来科学館)



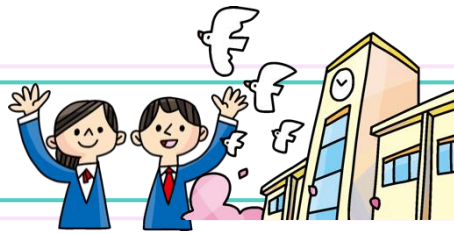
金閣寺の歴史



静電気の体験



研修修了！閉講式



2024年1月31日



閉講式では JICA の宮崎桂理事よりお話があり、この研修で見つけた日本のいいところと、日本に来たからこそ再確認できた居住国のいいところ、その両方を持ち帰り、日系人としての誇りと自信を胸にこれからも成長して欲しいというエールが研修員に送られました。

続いて、お世話になった中学校を代表して仲尾台中学校の藤井正春校長先生からもご挨拶をいただきました。世界中の人が仲良く、国境を超えてお互いに平和で豊かな関係がつかれるよう、仲間と一緒にこれからも学び続けてほしいと激励のお言葉をいただきました。



この1か月間の研修を無事修了したしるしに、研修員一人一人の名前が呼ばれ、宮崎理事より修了証書が授与されました。

閉講式の最後は研修員を代表してペルーの健生くんがこの研修を振り返り、スピーチをしました。祖先がどうして日本から海外へ移住したのか、当時の様子を知りたかったという健生くんが、この研修でどのように祖先の海外移住について学習してきたのか、3週間に及ぶ日本での冒険について話してくれました。



研修員代表スピーチ



2024年1月31日



「さよなら」ではなく「またね」ですよ！

僕は四歳の時から色々な先生達と日本語を勉強しています。そして、2022年から日本語を一生懸命勉強して僕の日本語はどんどん上手になってきました。その理由は「僕の祖父母の言語が大事」だと思ったからです。去年、能力試験のN4とN3に挑戦して、たくさん努力して、合格することができました。

日本語の試験のために勉強していた時、通っている学校からJICAのプログラムについてのお知らせをもらいました。それを見て、「今年目標として挑戦してみよう！」と考えました。さらに、なぜ私達の祖先が海外に移住したかを理解したかったので、僕はJICAの研修に参加したいと思いました。そして作文を書き、面接や健康診断をして、僕はペルーの代表の一人になりました。これは僕のアドベンチャーの始まりでした。

この研修の間に、僕は知りたかった事がわかって来ました。でも、どうやって答えを探したと思いますか？

1月15日に移住学習に関して、1日中勉強しました。まず、ゲームをしながら私達の移住についての知識を得る事が出来ました。それから、JICAの中にある海外移住資料館に行って、祖先が使っていた機械の使い方や、それぞれの都道府県から移住した人の数も知る事ができました。また、日本が戦争に負けて物が無かったとき、ラウという協会から物資をもらった事や移住する船で行っていた行事等も学ぶ事ができたので、本当に良かったと思います。移住した人々の様子を想像してすごいと思いました。さらに、横浜の港へも行って船が出発した場所を見ました。この日は最高だったと思っています。

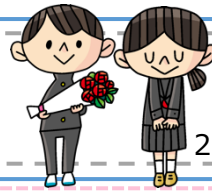
その他、1月24日に神戸の海外移住と文化の交流センターにも行きました。そこで船の中の様子をもっと詳しく見てとても驚きました。その後、祖先達が歩いた道を僕達も歩いて港まで行きました。面白かったです。他にも、ホストファミリーと過ごした1日の中で、その家族のお祖母さんから、戦争があった時の話も詳しく聞き、その時にあった問題も理解する事ができました。

今の私達は祖先のような経験をしていると思います。言葉や生活や文化が違う他の国へ来て、色々な事を体験しています。しかし、僕たちは別々の国籍ではなく、私達は全員、日系人ですよ！この研修で日系人の絆をもっともっと強くして、自分の国に帰れたら、僕はこんな事を伝えたいと思います。例えば、「こんな国の日系文化が面白くて、私達の日系文化と似ている」などです。このような事を伝えるのが、この研修の本当の目的だと思います。その上、私達はみんな自分のルーツを発見しました。

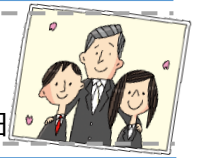
今日はこのアドベンチャーの終わりの日です。僕たちはここにいるみんなと過ごした3週間をとても楽しみました。悲しい時も嬉しい時もありましたが、友達を作って、冗談や笑い声もいつもありました。十年後、二十年後、いつまでもこの研修の思い出が残ると思います。

先生や私達と一緒に過ごした人に心から感謝しています。将来にまた出会える機会があればまた会いましょう！みなさんありがとうございました！

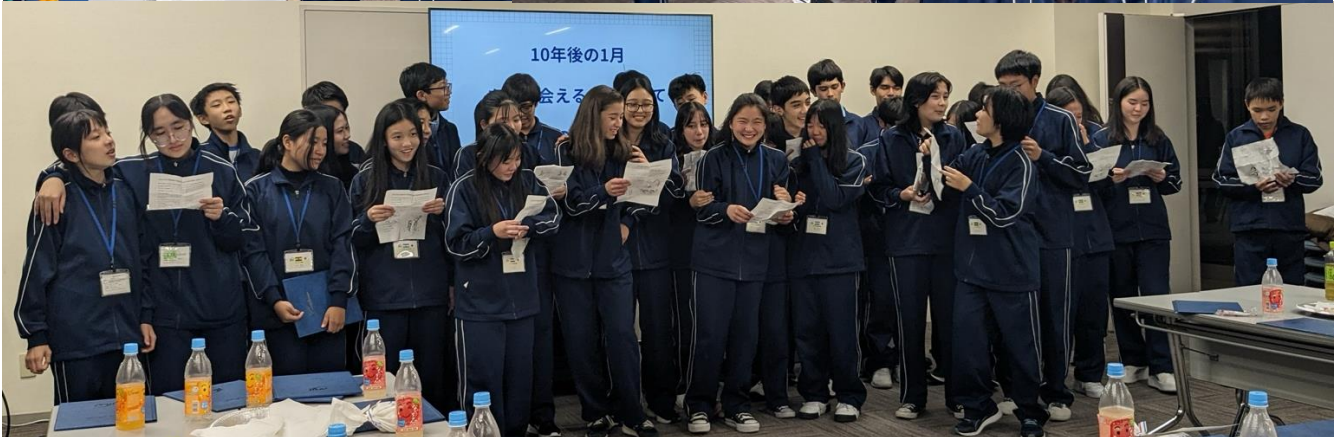
感謝の気持ちをこめて



2024年1月31日

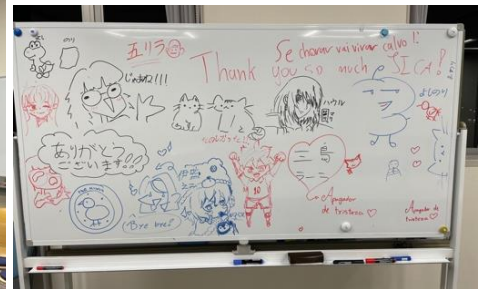


閉講式後、本牧中学校の高橋秀吉校長先生に乾杯のご挨拶をいただき、全員で研修の修了を祝いました。お世話になった先生方やこの研修に関わってくださった多くの方々と帰国前の時間を惜しみつつ、感謝の気持ちを込めて、研修員たちが選んだ歌「君がくれたもの～Secret Base～」を合唱しました。研修員のアイデアで歌詞にアレンジを加え、お昼休みや研修旅行中のバスの中で練習を重ねてきました。最後は今の研修員が持てる力を出し切ったの発表となりました。お世話になったみなさま、本当にありがとうございました。



ここから始まる新たな旅へ

2024年2月1日



良き仲間との出会い...



日本での滞在日数は24日間。研修員は家族や親しい友人からも離れ、地球の反対側までやってきました。自分のルーツを探る大冒険の始まりです。冒険の舞台は日本。普段なら家族が助けてくれることも、研修というこの冒険の舞台では、全て自分で対処しなくてははいけません。洗濯から部屋の片づけ、毎日の宿題といったミッションをこなしつつ、あらゆるところに出現するコンビニ・自動販売機、おみやげといった誘惑と日々闘い、タイムマネジメントやお小遣いの管理についても学びました。12～15歳の研修員にとって、日本での3週間は、自由を感じるとともに、自立への第一歩にもなりました。

自分のルーツを知るという研修のゴールに向けて、助け合える仲間も増やしていきました。地域も言語も異なる36人を結びつけたのは、日系というルーツでした。研修員は、日本で出会った仲間とチームになり、助け合いの精神や他者を思いやる気持ちを育てていきました。自分たちが困難な場面に出会ったときや、大きな課題に取り組むとき、助け合える仲間がいることが大きな力となり、支えとなることも学びました。そして、相手を敬い、感謝や思いやりの気持ちを持って、お互いに助け合うことこそ、日系社会で今も受け継がれている和の精神であることに研修員は気がつきました。

日本語でのコミュニケーションや生活習慣・文化の違いに奮闘した日々、失敗した体験も含め、研修員自らが体験し感じたことは、祖先の移住当初の生活について想像する上でも価値ある体験となりました。知らない環境の中で、祖先がどのような心境で各々の人生を歩んできたのか、生き抜くために仲間とコミュニティを作り、どのような信念に支えられ今の生活を築いてきたのか、自身の体験から得た学びが加わったことにより、家族が歩んできた道を研修員は自分ごととして捉えられるようになりました。

思い返せば、期待と不安が入り混じる中、一人でこの研修に参加した研修員たち。思い切って知らない世界に飛び込んでいった研修員は、新しいステージに踏み出すたび、そこで出会う人々に助けられ、新しい学びを獲得し、日ごとにレベルアップしていくことができました。一つひとつ、壁を突破した先で研修員が得たものは自信や誇り、祖先・家族への感謝の気持ちでした。

2023年度日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）第2陣は1月31日をもって修了となりました。24日間にわたる大冒険の第1ステージはゴールを迎えましたが、この研修での学びを次へとつなげるべく研修員は歩みを続けます。自分たちが手にした日系のバトンを次の世代へどのように手渡していくのか、日系パワーを用いてどのように世界に貢献していくのか、探求する彼らの第2ステージは始まったばかりです。日本で出会った仲間たちと今後もお互いを勇気づけ、励まし合いながら、次世代を担う日系リーダーとして、より良い世界をつくるため成長していってくれることを期待しています。

5. 引率者の所感

ブラジル

川辺日本語学校

川辺 レナタ

2023年度日系社会次世代育成（中学生招へいプログラム）第2陣に引率者として参加させていただき、心から感謝しております。日本語教師としての仕事をこれからも続けるための役に立つ非常に貴重な経験をさせていただきました。大変お世話になりました。

このプログラムで南米の色々な国の日系中学生を引率することによって体験したことは、日本語教師の私にとってはかけがえのない経験になると確信しています。日本人の海外移住についてさらに深く学ぶことができました。日本語を継承語として教える大切さを改めて認識し、移住先の国々で日本文化に関する知識を維持させる必要性を強く感じました。

約一カ月の間、研修員の驚くほどの成長が見えました。

日本に来たことがある研修員は何人もいましたが、まったく初めての日本を体験している研修員もいました。それでも、本研修はみんなにとって唯一の経験でしたので、その来日経験による違いは研修生の学習に及ぼす影響がなく、全てが順調に進んだと思います。それは研修の素晴らしいプログラムや JICA の先生方が行われた興味深く、楽しい講座のおかげだと思います。

最初は日本語がちょっと苦手で自信があまりなさそうな研修員もいましたが、日本語をできるだけ使うように頑張っていました。最後はみんなが書いた研修の感想文を読みながら、研修員の目に見えた成長を誇りに思わざるを得ませんでした。

研修の初めには、日本特有のマナーやルールに慣れていないせいで、苦勞した研修員もいたかもしれません。しかし、その苦勞も勉強になったと思います。生まれ育った国と日本との違いやそれぞれの国の特徴や良さなどについて学ぶチャンスでもあったからです。そのような経験を通して、日系人としての自信をつけることができたと思います。

研修員が日系人としてのアイデンティティを確立するためにはご先祖様の言語や文化の維持や理解がとても大事だと私自身が再確認できました。研修員たちもそれが確認できたと感じています。

例えば、「JICA 横浜海外移住資料館」と「神戸の海外移住と文化の交流センター」を訪問した時、日本人の海外移住について学ぶ研修員のワクワクしている姿を今でも忘れることができません。特に神戸にて「海外移住と文化の交流センター」を訪問した際、研修員たちの喜びに感動させられました。自分たちのご先祖様の移住した国に至るまでの歴史を学びました。それから、研修員たちが神戸の港まで移住者の歩いた道を自分の足で歩いてみた時は、ご先祖様と同じ道を歩む体験ができました。間違いなく、研修員たちにとって非常に貴重な経験になったと思います。

研修員が本研修で経験したことを活かしながら、自分と自分の国、それから移住先の日系社会のために役立つような活動をしてくれると嬉しいです。帰国してからの研修員の活躍を楽しみにしています。

最後に引率者としての仕事をする機会をいただいた JICA の皆様に厚くお礼を申し上げます。日本と日系社会との関係や絆についてさらに学ばせていただきました。ありがとうございました。これからも日本語教師としてその経験を活かしていきたいと思えます。

6. 総評

明治元年（1868年）、サトウキビプランテーションの労働者としてハワイへ渡ったことからじまると日本人の海外移住は約150年の歴史を有しています。その間、米大陸各国、各地域の日系社会では日本語学校を中心にコミュニティを形成し、今日まで継続してきています。しかしながら、世代が進むにつれ、日本語学校に通う日系子弟の減少、日系コミュニティへの帰属意識の低下や日系アイデンティティの希薄化といった問題が顕在化し、日本とのつながりもだんだんと弱くなってきているのが現状です。

そのような現状に鑑み、本研修は、次世代の日系社会を担う人材育成の一環として、「日本人の海外移住の歴史に関する学習、その他各種研修を通じて自分たちのルーツ、日本文化、習慣等を学んでもらい、日本に対する理解を深めることで、自らの日系人としてのアイデンティティを強化すること」を目的としています。

1987年度より始まり30年以上継続実施してきた訪日研修でしたが、2020年度には新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、その影響から3年間に及び、研修の中止が余儀なくされました。このような状況下にいる日系子弟が同年代の日系人と共に日本文化や祖先の海外移住について学べるよう、訪日研修に代わるオンラインプログラムを実施し、多くの日系子弟に学習の機会を作ってきました。しかしながら、各国の日本語学校からは、訪日研修を目標に日本語学習に励んできた日系子弟にとって、長年の目標に挑むこともできなかったこの期間は、もどかしい想いを抱えた3年間だったとも報告されています。

こうしたコロナ禍を経て、ようやく2023年度より訪日研修が再開されることとなり、2023年度日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）第2陣の実施に至りました。研修では日系アイデンティティの涵養・強化を企図した移住学習を通じ、身近な家族の歴史や自らのルーツを確認するとともに、祖先への敬意や当時の移住者への共感を育むプログラムを構成しました。こうした移住学習の他にも、日本の伝統文化や最新技術に触れる機会、中学校体験入学やホストファミリーとの交流といった日本人との交流体験を通じ、日本及び日本人とのつながりに対する誇りや絆を感じることができるプログラムを実施しました。

加えて次世代の日系社会を担う人材としての人間力向上を企図し、本研修のプログラムでは、日本的価値観に触れ知見を深めることにより、研修員自身が居住国と日本の相違点、双方の持つ良さ、さらには両国の発展のために自らが実現できることについて考えられるようプログラムを構成しました。吸収した知識を総合的に使い、課題解決に向けたアイデア及びアプローチ方法を考えられるよう、柔軟かつ豊かな発想力、人間力の育成においても本研修で強化できるよう努めました。

ブラジル、ペルー、ボリビア、パラグアイ、アルゼンチンからの研修員36名は、集団生活を共にする中でコミュニケーションの方法を学び合い、またお互いを通して世界に広がる日系社会の存在や共通する価値観について認識することができました。24日間という限られた時間の中、移住学習をはじめとした様々な講義や体験入学、ホストファミリーとの交流といったプログラムを通じて、研修員たちは可能な限り日本を体験しようとして心を開き、新しい経験から知識を吸収しました。思考力・知識量においてもまだまだ成長段階である研修員にとって、今後の明確なアクションプランを現時点で打ち出すことは容易ではありませんが、本研修での学習をきっかけに、日本人移住者

が移住先国で大切に受け継いできた日本文化の価値や継承方法について、継続して思考を深めていくことにより、次世代を担う彼らは自身に必要な力を見極め、今後も成長していくのではないのでしょうか。

研修員同士、そして日本で出会った人々との交流を通じて、日系社会及び日本社会との連携を可能にする若い力が芽を出したことは本研修の大きな成果であったといえます。本研修に参加した一人ひとりが自分たちのアイデンティティ、日系人の強みや可能性を生かし、お互いのコミュニティを結ぶネットワーク作り、そして南米と日本との関係をつなぐ架け橋として活躍してくれることを期待しています。

